

大学名 鳴門教育大学

第74号 特集タイトル
「未来社会に向けた教員養成」

表題 セルフデザイン型学修の展開 ～一人ひとりが特長を生かして活躍できることを目指して～

目指す教師像 主体的に学び創造的に実践する教師（創造的実践者としての教師）

教員養成のねらい 自己の成長課題を把握し、変化を前向きに受け止め、**教職生涯を通じて学び続ける教師を養成**。
自己の学修経験に基づいて、子供たちの個性を生かした**主体的な学びを支援する伴走者となれる教師を養成**

教員免許更新制解消後の
「新たな教師の姿」
養成段階から身に付ける

教員養成教育の転換 **規準適応型教員養成から自己伸長型教員養成へ**
本学の教員養成教育では従来、大学が要求する能力の評価規準（スタンダード）に学生の学修を合致させる教育（規準適応型）から、日々の成長課題に向けた**主体的な学修（セルフデザイン型学修）**を実現する**自己伸長型教員養成へ**と転換

“三位一体”の教員養成改革 セルフデザイン型学修を支える“三種の神器”



初年次教育科目での美術館へ提案プレゼン
初年次教育科目での防災に関するグループワーク

カリキュラム改革 1

教員養成課程を通して、セルフデザイン型学修の修得・実践をカリキュラムの柱として位置付ける。初年次教育科目として「鳴門大生学びの第一歩」を2科目開講。

1 鳴門パースペクティブ

学びのコンパス（指針）として、教職コンピテンシーとトランスファラブルスキルからなる「鳴門パースペクティブ」を制定。学生の学びをガイドする指針として活用。

領域	項目	内容
教職としての能力	1. 児童・生徒の理解	児童・生徒の発達段階、学習特性、個性、文化背景などを理解し、その発達段階や学習特性に合わせた指導を行う。
	2. 授業の計画・実施	学習目標を設定し、適切な教材・教具を選択し、効果的な授業計画を立て、実施する。
	3. 評価の実施	学習目標に基づき、適切な評価方法を選択し、学習成果を適切に評価する。
	4. 指導の改善	授業の実施結果を振り返り、指導方法を改善し、児童・生徒の学習意欲を高める。
教職としての態度	1. 主体的な学びの実現	児童・生徒の個性を生かした主体的な学びを支援し、その学習意欲を高める。
	2. 協働的な学びの実現	児童・生徒と協働して学び、互いに学び合い、成長を促す。
	3. 創造的な学びの実現	児童・生徒の創造性を引き出し、新しい学びの場を創出する。
	4. 持続的な学びの実現	児童・生徒の学習意欲を継続的に高め、生涯学習の基盤を築く。

学びのコンパスとしての鳴門パースペクティブ

指導體制の整備 2

セルフデザイン型学修支援センターを設置し、学生の学びを支援する全学体制を整備。指導教員によりファシリテートする時間を確保。学生自身の学びを見つめ直す時間を確保。

主体的に学び創造的に実践する教師

初年次教育科目群、ICT活用指導力育成科目群、教職科目群、教育実習科目群、教科・領域教育科目群、現代的教育課題対応科目群

SELF-DESIGN QUEST

新時代の教育をリードするセルフデザイン型学修

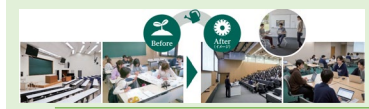
2 スマホアプリ「セルデザ」



セルフデザイン型学修のためには、学修経過・成果の可視化により、学生自身の現在地を把握することが不可欠。スマホアプリ「セルデザ」に、学生が日々の気付きなどを記録。記録した省察やメモなどの定性データと成績などの定量データから、AIによる分析を加えて、いつでも、どこでもフィードバックするシステムを開発。

3 セルデザクエスト

学びを統合する活動として、体験の場「鳴門大生セルデザクエスト」を設定。学生自らの課題意識と関連する地域課題等に対して、学生グループが地域のステークホルダーと一緒に解決策を模索しながら取り組む。



3 教室環境の整備

学生が能動的・協働的に学びを進めていくことのできるEdTechを活用した協働学修実践環境へ転換。学生同士・学生-大学教員がPC・インターネット等を活用しながら縦横にやりとりできる教室空間を創出。